

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目

国語(現代文・文系)

総括

出題数	現代文 2 題、古文 1 題		
難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

㊦は、昨年度に引き続き随想からの出題であり、小説家が、明治以降の日本におけることばと人間の関係のあり方について、愛という言葉をめぐる思索した文章であった。本文字数は昨年度からほぼ変わらず、3000 字程度であった。本文内容は昨年よりやや難しく、設問についてはまわりをまとめるだけでは必ずしもうまくいくとは限らないものを含んでいた。その点で去年よりも難しい出題であった。それゆえ設問の求める範囲を明瞭に特定し、必要にして十分な内容を適切な表現で解答するのは簡単ではない。設問数は昨年度と同様であり、漢字の書き取りは出題されず、記述説明が 5 問であった。設問は部分要旨的な内容理解を前提としたわかりやすい説明を求めるものが中心である。解答記述量は昨年度の 17 行から 1 行の増加で、計 18 行であった。設問形式としては、内容説明 4 問、理由説明 1 問の構成であった。

㊧は、高浜虚子「写生趣味と空想趣味」からの出題であった。本文字数は昨年度から 300 字程度増加し 2700 字程度であった。解答欄の行数は合計 17 行で昨年度と同じである。設問数は例年通り、記述説明 5 問である。傍線部の内容説明が 4 つ、理由説明が 1 つであった。

〈特記事項・トピックス〉

㊦について、文系専用問題は問二で、傍線部そのものではなく、そこから読み取れる筆者の考えを説明させるものであった。また、昨年出題されなかった理由説明問題が一問出題された。著者の坂口安吾は、二〇一二年に文系の第二問で「意欲的創作文章の形式と方法」が出題されている。

〈合格への学習対策〉

㊦ 文系・理系共通問題としては昨年度と同様に随想の出題であった。評論・随想・小説問わず出題される可能性があり、ジャンルにかかわらず広く対策をしておくことが望ましい。あらゆるジャンルの読解と記述対策を行ったうえで、過去問題に十分に組み込んでおくべきである。その際、設問に対する適切な応答になるように、本文の要点を正しい論理関係で記述することを意識し、また随想の場合は口語的表現あるいは比喩的表現の一般化を意識的に行うようにしたい。また語彙力の拡充も欠かせない。

㊧ 昨年度に続き、随想からの出題であった。学習対策としては、随想を中心として、さまざまなタイプの文章の読解力と、それらに付される設問の解答力を養成しておくことである。傍線部を含む一文の表現を中心として、文脈の正確な把握と比喩解釈も含めた的確な解答表現を心がけよう。単に本文内容の理解にとどまらず、傍線部の表現ニュアンスを細部まで置換しうる表現力が要求されているものと考えよう。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

問題分析(本文)

問題 番号	類別 (ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文の レベル
一	随想	坂口安吾「恋愛論」	愛という言葉に関わる様々な場面に即して日本における言葉と人間の関係について考察する随想からの出題であった。西洋文明を背景とするキリスト教と日本における愛という言葉の違い、明治以降の言葉のあり方、そして恋愛にかかわる事柄における言語と人間の関わりと言った話題を通し、言語のみならず、ものや他者との関わりのある方をめぐる考察が示される。	やや難
二	随想	高浜虚子「写生趣味と空想趣味」	俳人の随想(俳話)からの出題であった。タイトルにもあるように、俳句における写生趣味と空想趣味という二つの姿勢について、「夕顔」「春雨」という具体的事例を通じて考察している文章である。	標準

設問分析

問題 番号	設問 番号	設問 形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問の レベル
一	問一	記述	内容説明。第1段落に書かれている、切支丹の「愛」と日本の「愛」との違いを中心に、当時の切支丹が「大切」という言葉を「苦心のあげくに発明」するまでの「苦労」についてまとめる。(解答欄4行分)	標準
	問二	記述	内容説明。明治以来の日本の言葉に対する筆者の価値評価について、傍線部直前とその次の段落の内容を踏まえてまとめる。単純な傍線部の言い換えではなく、傍線部から読み取れる筆者の考えをまとめることに注意する。(解答欄4行分)	やや難
	問三	記述	内容説明。傍線部前後を中心に「あべこべ」という表現に示されている対比関係をまとめる。「不安」と対応する傍線部直後の内容を端的にまとめる必要がある。(解答欄3行分)	標準
	問四	記述	理由説明。「ほんとうのこと」に対して筆者が「きらい」という理由について、12段落「そういう素朴な思想が嫌いである」14段落「勝手にそうするがいいだけの話」を中心にまとめる。(解答欄3行分)	やや難
	問五	記述	内容説明。筆者の考える「恋愛」とそれについて「考えたり小説を書いたりする意味」を説明する。傍線部以降の内容を中心に、第5段落の内容を踏まえてまとめる。(解答欄4行分)	標準

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

二	問一	記述	理由説明。傍線部で示された子規の言葉について、筆者が「不安」「不平」を抱く理由を説明する。設問文に「『夕顔』に即して説明せよ」とあるので、「夕顔」に即して説明する。傍線部より後の部分に筆者の考えが書かれているのでここをまとめる。「不安」と「不平」については敢えて分けて説明せずともよいだろう。（解答欄3行分）	標準
	問二	記述	内容説明。傍線部「これ」の内容を明示した上で、「その弊」となる点を説明する。写生趣味が空想趣味を欠くことによってどのような弊を招くのかについて、第3段落と第4段落の対比を整理すればよい。（解答欄4行分）	標準
	問三	記述	内容説明。傍線部の主題「この空想趣味」について第4段落の内容をまとめて説明するとともに、傍線部「アダム、イヴ」という比喻で表された内容については第5段落の対応する表現に注目できると説明しやすいだろう。設問文に「『春雨』例にして説明せよ」とあるので、「春雨」の例に即して説明する。（解答欄3行分）	標準
	問四	記述	内容説明。傍線部の主題「この打破刷新」について説明する。「その勢はなはだ猛烈」という前提をふまえた上で、「玉石ともに焚く」という慣用表現については、語義理解をもとに、「石」だけでなく「玉」も駄目になるという構成で説明する。問五が俳句に限定した説明になるので、問四については文学美術一般の水準で説明するとよいだろう。（解答欄3行分）	標準
	問五	記述	内容説明。傍線部を含む箇所は、問四で主題となった「打破刷新」が歳月を経るなかでたどると想定されるプロセスについて述べている。解答もプロセスを意識した形にするとよい。問四とは違い俳句に即しながら、写生趣味が結局、空想趣味に回収されるという過程を説明する。（解答欄4行分）	やや難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

京都大学

前期日程

科目

国語(古文・文系)

総括

出題数	現代文 2 題、古文 1 題		
難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

文系に対する要求の水準は、依然として高い。

〈特記事項・トピックス〉

『木草物語』は2017年度のセンター試験で出題されている。

〈合格への学習対策〉

基本的な事項をおろそかにせず、一語一語を正確に把握する必要がある。小手先のテクニックは通用せず、文章全体を視野に入れながら部分部分を的確に読み取り、読み取ったことを明確に説明できる思考力や文章表現力を養うことが重要である。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
三	擬古物語	『 きくさものがたり 木草物語』 みやべまんじょ 宮部万女著		標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
三	問一	記述	心情説明。	標準
	問二	記述	現代語訳。「多くは」の解釈が難しい。	標準
	問三	記述	現代語訳。	標準
	問四	記述	和歌の心情説明。比喻表現に注意が必要である。	やや難

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。